



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈祷会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈祷会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧師 : 杉村 幸 (日語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimurai950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

人間が言葉話すように鳥がさえずるといふのは、当たり前のように、実は非常に高度な脳の働きによる学習の結果であることが分かってきました。小鳥は脳内にさえずるためのみに特化された中枢を持っているというのです。それはまるで、人間の子供が言葉を覚えるのと同じような仕組みです。幼鳥の特定の時期に、親のさえずりを聞いて脳のその部分に覚えこませ、第二段階として、自ら歌い始め、脳に記憶している音に近づけるよう練習を積み、最終的に親と同じようになるのです。ですから、さえずり方を覚えるべき幼鳥時に、人工的に音のない世界に入れて育てると、同じ種類の鳥でも、同じように歌うことはできません。また、同じ時期に、聴覚を奪われたり。他の種類の鳥に囲まれて育っても、やはり同じように歌うことはできません。ウグイスが「ホーホケキョ」と歌うためには、幼鳥期の限られた期間に、「ホーホケキョ」と歌う親元で育ち、練習を重ねなければならぬのです。鳥のさえずりと人間の言葉との最大の違いは、鳥はオスのみがさえずることです。それは自らのテリトリーを主張するためと、メスに対する求愛のためなのです。メスは、そのさえずり方と行動から、より優秀なDNAをもったオスを選べばよいだけで、オスは選ばれるために必死に努力をします。すね。うーん、人間もそうだったら、女性としてラクなんだけどなあ、などと考えてしまうのは、私だけででしょうか。

西条八十作詞の「唄を忘れたカナリヤ」という童謡がある。唄を忘れたカナリヤも、自分の居場所を見つけないことができれば再び美しい声で歌い出すという意味が生まれるのである。小鳥も人間同様、学習して初めて音として出てくるのだ。神の世界はどうかというところ、「命の息をその鼻に吹きいれられた。そこで人は生きた者となった」(創世記二・7)とあるように、人と神の関係は、神の命である聖霊の息が吹き込まれることよって始まる。では、現在、聖霊がどのように私たちに働かれるのかというところ、主イエスを救い主として受け入れた時から始まる。その時に自づと主への賛美がほとばしり出るのである。

◎石 叫 口

「小鳥は歌が好き」

『羅府新報』(九月五日付)に小川弘子氏の「音楽の散歩道」の連載があるが、今回の「ことりはとつても歌がさき」は、実に目を見張る内容であった。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

